

[091_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/7329595>

出版情報：法政研究. 91 (3), 2024-12-18. Hosei Gakkai (Institute for Law and Politics) Kyushu University

バージョン：

権利関係：





九州大学教授 江口厚仁 先生

江口厚仁教授は、1959年に福岡県門司市（現在、北九州市）で生まれ、1982年に九州大学法学部を卒業後、1982年から1984年まで高校教諭を務めた後、九州大学大学院法学研究科修士課程に進学し、故畑穰教授の下で法社会学の研究を開始した。その後、1987年に修士課程を修了、1990年に同博士課程を単位取得退学し、九州大学法学部助手を経て、1991年に同助教授として着任、2001年に九州大学大学院法学研究院教授へ昇任された。

江口教授は、30年以上の長きにわたり、九州大学法学部、大学院法学府で研究・教育に尽力されたほか、教育学部（併任）でも長年講義をご担当され、また西南学院大学などの非常勤講師としても法学教育に努めた。学内行政においても、2004年から2016年まで（2009年4月から2011年4月を除く）法学部学務委員長、2014年から2019年まで、法学研究院副院長を務めるなど、余人を以て代えがたい存在として、多大な貢献をされた。

江口教授の研究領域は法社会学であり、Niklas Luhmannの社会システム理論をはじめとする多くの社会理論を道具に、法システムの内外で起きる現代社会の諸現象を、社会の法化現象・法システムにおける主体・公共性・暴力・法システムの自己組織性とパラドックス問題などの原理的な問題設定から解き起こし、該博な知識と鋭い理論的視点をもって論じた。Luhmannの主著の一つである“Das Recht der Gesellschaft”の訳書『社会の法（上）（下）』（共訳、法政大学出版社、2003年（2015年改裝版））は、レッシング翻訳賞2004（Lessing-Übersetzerpreis 2004）を受賞している。また学外では、日本法社会学会理事（2005年～2020年）、日本法社会学会九州研究支部事務局長（2000年～2024年）、九州法学会監事（2018年～2024年）などを歴任された。

江口教授は、その朗らかで寛容なお人柄から、多くの学生に愛される存在であった。講義では、錯綜する現代社会の諸問題に明確な分析枠組みを与え、テンポのよい語り口で、多くの学生の知的好奇心に応えつつ、学問の魅力を伝えられた。学部演習には毎年多くの学生が参加し、どんな問題提起も誠実な態度で行えば受け容れられ、真剣に分析・討論するゼミとなった。学部ゼミの卒業生の結束は固く、折に触れて教授を囲む場が開かれている。

また、大学院演習には、専門領域を問わず多くの大学院生が集い、最先端の理論を各々の立場から論じ合う、学問の場としてのユートピアが実現していた。江口教授ご自身の弟子はもちろん、演習で多様な問題意識を学びつつ巣立った研究者は多い。そのことは、3冊の編著本『圏外に立つ法／理論』『境界線上の法／主体』『作動する法／社会』（共にナカニシヤ出版）の多彩な執筆陣を見れば、十分に窺い知れよう。

江口教授は多彩な趣味を持ち、退職後はそれに邁進されるとのことだが、その趣味の中には、当然ながら更なる学究も含まれるものと解される。今後も、我々後進への変わらぬご鞭撻を切に願いつつ、本号を献じる次第である。